

米子市の決算

平成15年度の一般会計、特別会計及び企業会計（水道事業、工業用水道事業）の決算がまとまりましたのでお知らせします。

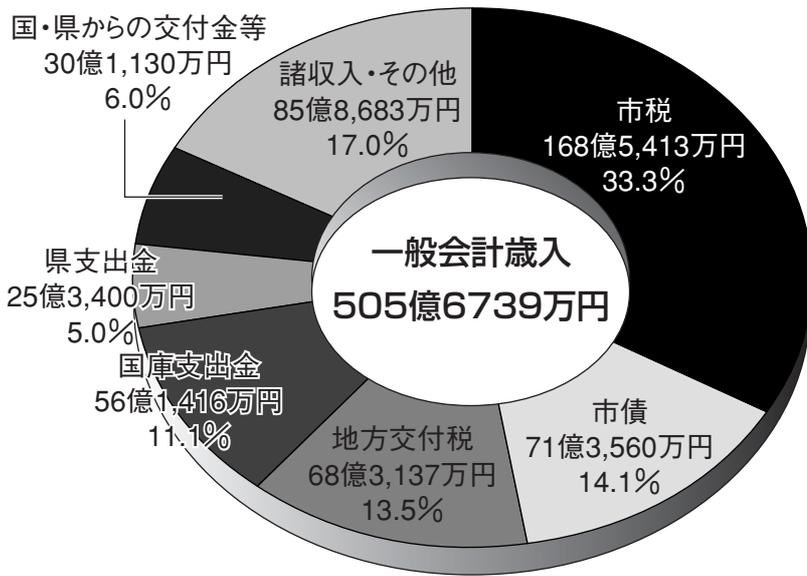
一般会計の

歳入

入

歳入は、前年度に比べて0・9%の増加となりました。これは、市債（市の借入金）が前年度に比べて29・7%増えたほか、国庫支出金が16・2%増えるなど、特定財源（使いみちがあらかじめ決められたお金）が増えたことが大きな要因です。

一方、長引く不況の影響で市税収入は4・5%減り、地方交付税も2・1%減るなど、一般財源（市で使いみちを決めることができるお金）は減っています。



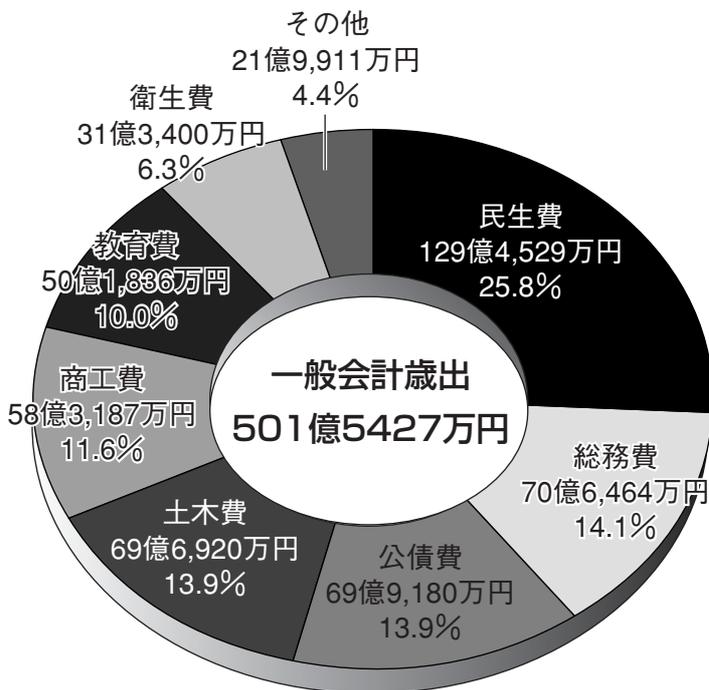
一般会計の

歳出

出

歳出は、前年度に比べて0・9%の増加となりました。児童扶養手当の支給事務を、県に代わって市が行うようになったことなどから、民生費が前年度に比べて6・3%増えました。また、クリーンセンター建設の際の借入金の返済が本格的に始まったことから、公債費が12・8%増えました。

一方、土木費は、駅前西土地区画整備事業など、継続して取り組んできた事業が一段落したことや、新たに取り組んだ事業が少なかったことから、14・6%減りました。



商工費

58億3,187万円



特色のある商店街づくり(田園)

- ・コンベンション・シティーの推進
- ・皆生温泉にぎわい創出

教育費

50億1,836万円



福生西小学校建替

- ・公民館整備・運営
- ・弓ヶ浜共同調理場新築

衛生費

31億3,400万円



乳幼児健康診査

- ・ごみ収集
- ・各種がん検診

公債費

69億9,180万円

借入金返済のためのお金

その他

21億9,911万円

農林水産業費、議会費、消防費など

主な**使 い み ち**

厳しい財政状況のなかで、限られた財源を有効に活用するように努め、「生活充実都市・米子」の実現に向けたさまざまな取り組みを行いました。

ここでは、歳出の目的ごとの金額と、実施された主な事業を紹介します。

民生費

129億4,529万円



さくら保育園耐震改築

- ・保育所運営
- ・障害者支援費支給
- ・介護保険、老人保健、国民健康保険への繰出金

総務費

70億6,464万円



だんだんバス運行

- ・市町村合併推進
- ・選挙経費

土木費

69億6,920万円



市営西福原住宅建替

- ・水貫川改修
- ・市道日原加茂川石井線改良
- ・下水道事業への繰出金

特 別 会 計

会 計 名	歳 入	歳 出	差 引 額
市営葬儀事業	4,118万円	4,118万円	0円
国民健康保険事業	107億4,220万円	104億5,594万円	2億8,626万円
南公園事業	1,887万円	544万円	1,343万円
住宅資金貸付事業	6,906万円	2億5,899万円	▲1億8,993万円
土地取得事業	1,969万円	1,956万円	13万円
公共下水道事業	70億4,036万円	79億3,077万円	▲8億9,041万円
高齢者住宅整備資金貸付事業	768万円	941万円	▲173万円
老人保健事業	128億8,863万円	128億6,342万円	2,521万円
駐車場事業	1億4,978万円	3億4,815万円	▲1億9,837万円
農業集落排水事業	20億280万円	20億280万円	0円
流通業務団地整備事業	1億4,523万円	30億6,405万円	▲29億1,882万円
崎津団地開発促進事業	33億2,626万円	33億2,626万円	0円
市営墓地整備事業	1億504万円	5,195万円	5,309万円
介護保険事業	83億7,777万円	81億7,257万円	2億 520万円
デイサービス事業	2億3,193万円	2億3,193万円	0円

(▲はマイナス)

※赤字決算になった会計（住宅資金貸付事業、公共下水道事業、高齢者住宅整備資金貸付事業、駐車場事業、流通業務団地整備事業）は、翌年度（16年度）の歳入から繰上充用して補てんしました。

◆財政用語の解説

一般会計と特別会計

「一般会計」は、市税、国や県からの支出金・各種交付金、手数料などの収入や、市の行う仕事に必要な支出といったお金の処理をまとめて行うために設けられた会計で、市のお金の流れの中心になっています。

ただし例外として、国民健康保険事業や下水道事業のように、保険料や使用料などの収入で運営していく事業については、その事業にかかるお金の流れをわかりやすくするために、一般会計とは別の会計を設けることになっています。これが「特別会計」といわれるものです。

地方交付税

市町村の財源の中心となっているのは税金ですが、入ってくる金額はそれぞれのまちの事情によって差があります。収入が少ない市町村でも一定水準の行政サービスを提供できるようにするため、国から交付されるお金が「地方交付税」です。

市民1人当たりで見ると...

(一般会計歳出決算額から)

子どもやお年寄り、障害のある方への福祉のためのお金(民生費)

9万1,995円



道路や公園の整備など、まちづくりをするためのお金(土木費)

4万9,526円



商工業、観光の振興のためのお金(商工費)

4万1,444円



小・中学校の施設の整備や文化の振興などのためのお金(教育費)

3万5,663円



健康診断や予防接種、ごみの回収処理などをするためのお金(衛生費)

2万2,271円



上水道事業

平成15年度の業務量は、給水戸数6万5958戸、年間総配水量2487万8807立方メートル（前年度比98・1%）、給水量2255万2931立方メートル（前年度比98・2%）で、有収率は90・7%となり前年度に比べて0・2%上昇しました。

改良事業では、口径75ミリメートルから300ミリメートルまでの老朽石綿管を2万3286メートル布設したほか、都市計画事業、下水道事業などの事業実施に伴い、口径25ミリメートルから300ミリメートルまでの配水管を1万6722メートル布設し、配水管網の充実を図りました。

また、良質な原水確保を目的として、車尾水源地に深井戸1井が完成しました。

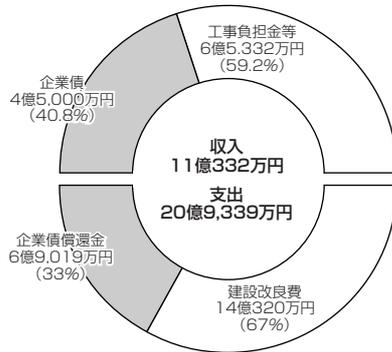
※有収率：年間総配水量のうち、料金収入のある水量（給水量）をあらわすものです。料金収入にならない水は、水道事業用に使われた水や漏水などです。

水道水を作るための費用

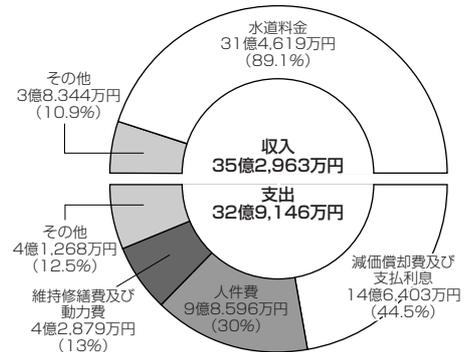
1m³当たりの水の生産原価は136円31銭です。



資本的収支



収益的収支



- ◆純利益・・・収益的収支の差です。平成15年度決算では2億3,817万円でした。
- ◆資本的収支の収入不足・・・資本的収支の収入不足は減価償却費・利益剰余金などで補てんしました。

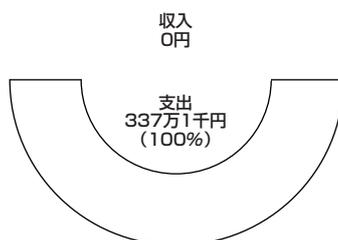
工業用水道事業

富士通ディスプレイテクノロジー株式会社米子テクノロジセンターに1日1800立方メートル、年間65万7000立方メートルの工業用水を給水するとともに、水道施設の保守管理を行い、契約水量の安定・確保を図りました。

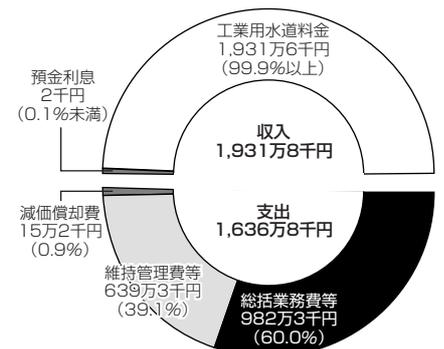
◆財政用語の解説

- 収益的収支** 水道事業の運営に伴う収入と、それに要した経費の収支。単年度における経営状況を示します。
- 資本的収支** 配水管の布設や更新、配水池の建設等施設整備に要した経費と、まかなった財源の収入をいいます。

資本的収支



収益的収支



◆純利益

収益的収支の差です。平成15年度決算では295万円でした。

◆資本的収支の収入不足

資本的収支の収入不足は繰越利益剰余金などで補てんしました。